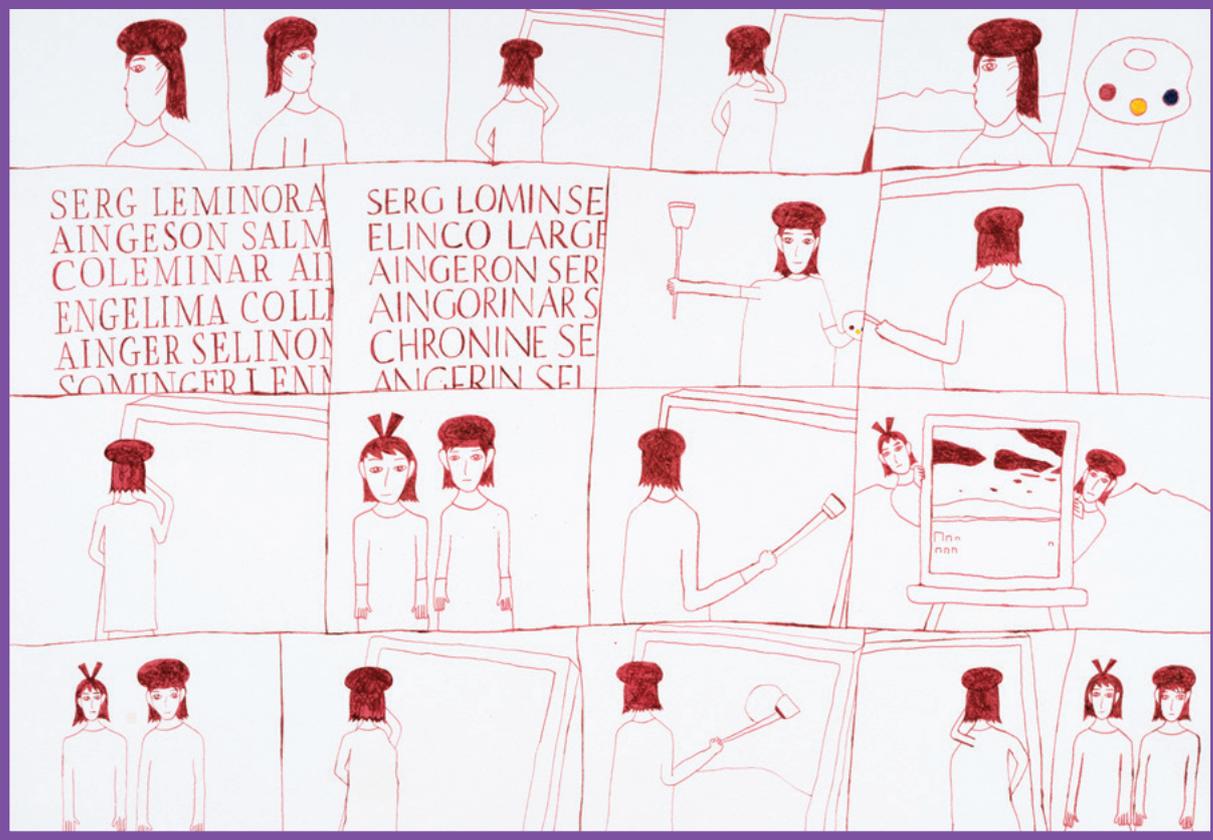


人間の才能



生きることと
生み出すこと



2022年
1 / 22 (土)
- 3 / 27 (日)

Genius: The Human Gift for Creating and Living

開館時間 | 9:30-17:00 (入館は16:30まで)
会場 | 滋賀県立美術館 展示室3
休館日 | 毎週月曜日 (祝日の場合は開館し、翌日休館)
観覧料 | 一般1,300円 (1,100円)、高大生900円 (700円)
小中生700円 (500円)

※ () 内は20名以上の団体料金
※ 身体障害者手帳等をお持ちの方は無料
※ 同時開催中の常設展もご覧いただけます
※ 年額2,400円 (一般) で何度でも観覧いただける
お得な年間パス (滋賀県美メンバーズ) 入会受付中

主催 | 滋賀県立美術館 後援 | エフエム京都
企画 | 保坂健二朗 (滋賀県立美術館ディレクター・館長)

問い合わせ先 | 滋賀県立美術館
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1
tel 077-543-2111 fax 077-543-2170
<https://www.shigamuseum.jp>
※ JRなどなるべく公共交通機関をご利用ください
(JR 瀬田駅からバスで約10分)

令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
文化芸術×共生社会フェスティバル事業

【上】土橋勇樹《無題》2020年、やまなみ工房
【下】鶴飼結一朗《妖怪》2021年、やまなみ工房

© Uchiro Ukai / Aihei Yamamami Courtesy Yukiko Koide Presents



人間の才能

生みだすことと生きること

出品作家 | 井村ももか、鶴飼結一郎

岡崎莉望、小笹逸男、上土橋勇樹、喜舎場盛也

古久保憲満、小松和子、澤井玲衣子、澤田真一

アルトゥル・ジミェフスキ、富山健二、中原浩大

福村惣太夫、藤岡祐機、山崎孝、吉川敏明

●本展キュレーターによる見所リコメンド

○鶴飼による《妖怪》(表面参照)は、今回17巻を連結させて全長14メートルで展示。圧巻のサイズで見られるのは多分この展覧会が最初で最後!?

○富山の重なる網や岡崎の極細の線など、ドロイング好きにはたまらない作品がたくさん。

○ヴェネチア・ビエンナーレなど世界各地で展示され、テートのコレクションにもなっているアルトゥル・ジミェフスキの《Blindly》(2010年)を展示。18分の映像作品、お時間には余裕をもって!

●関連イベント ※最新情報や詳細は当館HPでご確認ください

○フォーラム

『文化芸術×共生社会フェスティバル
クロージングイベント』

2022年2月5日(土) 会場 | 滋賀県立美術館 木のホール

登壇者 | 上田假奈代(NPO法人こえとことばとこころの部屋/
コロール代表理事)、森司(アーツカウンシル東京事業推進室事
業調整課長)、保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター・館長)

○ワークショップ

『たいげんびじゅつかん with やまなみ工房』

2022年3月12日(土) 会場 | やまなみ工房

●アクセス

○公共交通機関をご利用の場合=JR琵琶湖線(東海道本線)「瀬田駅」(京都駅から普通電車で約17分)下車、バス「滋賀医大」「大学病院」行にて「文化ゾーン前」下車、徒歩約5分 ○お車をご利用の場合=名神・新名神高速「草津田上インター」から約5分 ※なるべく公共交通機関をご利用ください。※お身体の不自由な方は、びわこ文化公園東駐車場の有人ゲートからお車を乗り入れて、美術館までお越しいただけます。



●来館時のご案内

新型コロナウイルス感染症対策として、来館される折には下記のお願いをしておりますので協力をお願いいたします。

①美術館入口での手指消毒および体温測定 ②館内でのマスク着用
※新型コロナウイルス感染症の影響により会期・時間等が変更になる場合があります。当館HP等でご確認ください。

●問い合わせ先

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

tel 077-543-2111 fax 077-543-2170

<https://www.shigamuseum.jp>

Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館



いま、「つくること(Making)」に注目が集まっています。人類学者のティム・インゴルドは、人間にとって「つくること」というのは、最初に想像していた形にあわせて作りあげる行為などではなく、自分が手にしている材料と対話をしながら、なにかを育てていくかのようにする行為だと言っています。そんな、人間が持っている才能のひとつである「つくること」の本質を再確認するべく、本展では、育てるようにつくること、つまり「生みだすこと」が、「生きること」と一体になっているような人たちの作品を紹介します。たとえば藤岡祐機は、幼少期から切り絵をつくっているうちに、紙に鉄で櫛の歯状に切れ込みを入れると小さくも美しいオブジェが生まれることに気づきました。澤井玲衣子は、かつて自分が訪れた場所や時間の記憶や好きなピアノの音をもとに、たおやかなリズムの感じられるイメージを生みだします。彼らのほとんどは、プロのアーティストではありません。誰かに評価されるなど望まず、日々の生活の中で独自の的方法論を編み出しながらかつてつくっていく彼らの作品からは、「生みだすことと生きること」を接続させていくことの大切さを深く感じ取れるはずで



澤田真一《無題》2009年、滋賀県立美術館



藤岡祐機《無題》2006-2009年頃、滋賀県立美術館



喜舎場盛也《無題(ドット)》2014年、作家蔵



富山健二《無題》制作年不詳、作家蔵



アルトゥル・ジミェフスキ《Blindly》2010年
Courtesy of the artist, Galerie Peter Kilchmann, Zurich, and Foksal Gallery Foundation, Warsaw



澤井玲衣子《パリのチェリー》2005年
たんばの家アートセンター HANA



小笹逸男《集う猫》1980-1984年頃
みずのき美術館



井村ももか《赤い玉》2013年、やまなみ工房